

珍菌アンドンタケを模式産地で90年ぶりに確認

村川 功雄（東京大学千葉演習林）・尾崎 煙雄（千葉県立中央博物館）

1. はじめに

アンドンタケ（行灯茸）*Clathrus ruber* P. Micheli ex Pers. form. *kusanoi* Kobayasi はスポンタケ目スポンタケ科の菌類である。日本のみから知られ、本州（千葉県、東京都、愛知県）に分布する。千葉県レッドリスト（千葉県環境生活部自然保護課（編），2017）では「最重要・重要保護生物」に指定されており、その形態の特異さも手伝って珍菌とされている。

アンドンタケの模式産地は鴨川市清澄山である。1928年7月28日に当時東大農学部教授であり日本菌学会の初代会長でもあった草野俊助が鴨川市清澄で採集した標本に基づき、菌類学者の小林義雄によってアカカゴタケ *Clathrus ruber* P. Micheli ex Pers. の新品種として記載された（小林，1938）。アカカゴタケは托枝（腕）が形成する籠目の数が10筒以上（通常20筒程度）あるのに対し、アンドンタケは10筒以下である。千葉県内では清澄の他に、君津市折木沢での記録（井口，1992）、2014年に市原市で採集された標本記録（千葉県立中央博物館収蔵）、南房総市（旧安房郡和田町）で目撃記録（吹春，1999）があるのみである。模式産地である清澄では1928年以降の確実な発生記録が途絶えていた。我々は草野の発見から90年後に当たる2018年に1子実体の発生を確認したので報告する。

2. 発生地概要

発生地は千葉県南部房総丘陵の東南部に位置する清澄山の一角にあり、標高は300m。最寄りの気象観測所のデータでは、2018年の

年平均気温は15.0℃、年間降水量は2,195mm、年平均日射量12.1 MJ/m²である。

発生を確認した場所は、開けた土地に隣接する林縁である。林は胸高直径が50cmを超えるカシ類やスタジイなどの常緑広葉樹から成り、スギが数本混在する。地表には落葉落枝が厚く堆積し、周辺には伐倒して短く玉伐った材が多数転がっており、肥沃で比較的明るい環境である。

3. 確認時の様子

筆者らは2018年7月11日午前10時ころ、これまで見たことのない異彩を放った圧倒的な存在感のある新鮮なキノコを確認した。



図1 発見時の様子（午前10時）

確認時には既に成熟状態と思われ、卵状の殻皮から伸びた籠目状の托枝は千切れて開き、オリーブ色のグレバと呼ばれる異臭を放つ粘液状の孢子塊が外側に露出して、周囲には魚貝類の腐ったような耐え難い悪臭が漂い、その悪臭に呼び寄せられたと思われるハエを数匹確認した。

4. 証拠標本採集時の観察

同日午後4時ころに子実体を採集した。確認時(午前10時ころ)には張りがあり鮮やかな発色をしていた托枝は、採集時には張りがなくなるとともに色褪せし、やせ細った状態となり、オリーブ色で粘液状だったグレバは乾燥して黒い塊になっていた。当日は天気良く、最高気温が30.4℃と高かったことも影響している可能性も考えられるが、成熟した子実体の寿命はかなり短いものと思われる。



図2 採集時の様子(午後4時)

子実体を採集する際、最初に托枝を持ち上げたところ、軽く触れる程度でやせ細った托枝は殻皮から簡単に離れ落ち、かなりもろい状態になっていた。その後、落葉落枝を慎重に取り除き、菌糸束をなるべく切らないように掘り起したところ、菌糸束は枝分かれしながら徐々に細くなり、表土とリター間の比較的浅いところに四方に張りめぐらされ、長いものでは30cm以上あった。見た目には弱々しく感じられる菌糸束だが、引っ張っても容易には切れず、想像以上に丈夫であると感じた。



図3 枝分かれしながら長く伸びる菌糸束

5. 同定の経緯

菌類の専門家である千葉県立中央博物館の吹春俊光学芸員に採集した証拠標本の同定を依頼したところ、非常に珍しいアンドンタケである旨の回答とともに関連資料もご提供いただき、千葉県(清澄山)に縁の深いキノコであることがわかった。ご協力いただいた吹春学芸員には厚く御礼申し上げる。

6. その後の観察

筆者らは証拠標本を採集した後も定期的な観察を行ったが、追加発生することはなく、1子実体のみを確認で終わってしまった。しかし発生を確認した7月11日以前にも発生していた可能性も否定できない。

7. 証拠標本の保管

証拠標本は千葉県立中央博物館に収蔵されている。

アンドンタケ:

千葉県鴨川市清澄, 11. VII. 2018,

尾崎煙雄採集(標本番号CBM-FB 43776)

8. 引用文献

- 千葉県環境生活部自然保護課(編)(2017) 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドリスト—植物・菌類編 2017年改訂版. 30pp. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉.
- 吹春俊光(1999) キヌガサタケとアンドンタケ. 千葉菌類談話会報 15: 18.
- 井口潔(1992) 東日本産腹菌類の二希種について. 埼玉県立自然史博物館研究報告 10: 1-10.
- 小林義雄(1938) 大日本植物誌 2 ヒメノガスター亜目及スッポンタケ亜目. 90pp. 三省堂, 東京.